

交野市教委ニュース

第58号 (平成29年4月17日発行)

「交野市の小中一貫教育」に向けて

これまでの市教委ニュースでもお伝えしてまいりましたが、本年4月から、「義務教育終了までの『学びの連続性』」の保障と、これからの社会の必須要件になってくる能力の育成をめざした小中一貫教育をすすめます。

4月13日には、兵庫県立大学准教授の竹内和雄先生をお招きし、校長研修会を開催しました。「この研修の様子を他府県の研修会でも見せたい」と竹内先生が研修の動画を持って帰られるほど、全校の校長先生の意識が高く熱心で、充実した研修会でした。

まず、これまで7年間の小中連携の成果と課題を小学校と中学校に分かれて議論しました。



平成22年度から、交野市では小中連携の充実に取り組みました。それにより、児童・生徒だけではなく、教職員もお互いの顔が見える関係になって行きました。

小・中学校間で文化の違いがありますが、それは課題でもあり、またその文化の違いが理解できるようになったという成果もありました。

児童・生徒や教職員の移動時間や距離、作成する書類量が増えるとの課題もありますが、課題以上に子どもたちへ返ってくる大きな成果がありました。

各中学校区で小中一貫教育をどのように進めて行くか話し合い、その後、交流をしました。



小中一貫教育の円滑な導入のためのシステムや柱（テーマ）を中学校区ごとに話し合いました。

中学校区で分科会をつくる、担当者が活躍できる環境をつくる、日を決めて毎月小中一貫の会議を開くなど、各中学校区で着実にシステムづくりが進められています。

また、柱となる取り組みでは、交野を流れる天の川に関する取り組みや、交野のイメージでもある「星」に関する愛称をつけよう、地域学習と外国語を組み合わせようなど、子どもたちが地域や交野に誇りを持てる内容が発表されました。

市教委としても、次期学習指導要領も見据え、英語・外国語教育の充実、プログラミング的思考の育成、言語活用力の向上に、人材の派遣も含めた支援をいたします。